

# 助成事業完了報告書

日本財団 会長 笹川 陽平 殿

報告日付:2020年5月10日  
事業ID:2018490293  
事業名:教育魅力化プラットフォーム  
団体名:(一財)地域・教育魅力化プラットフォーム  
代表者名:水谷 智之 印  
TEL: 0852-61-8866  
事業完了日:2019年3月31日

日

事業費総額	141,790,180 円	収支計算書の黄のセルの値
自己負担額	41,790,180 円	収支計算書の緑のセルの値
助成金額	100,000,000 円	収支計算書の赤のセルの値。千円未満は切捨
助成金返還見込額	0 円	(収支計算書の青のセルの値)

## 1. 事業内容:

### 1. 教育魅力化の全国展開

#### (1) 地域留学のサポート

a. 地域みらい留学フェスタの開催:2019年6月(計4回)

#### (2) 課題解決学習プログラム開発

a. 合宿:2019年4月~2019年12月(計2回)

b. マイプロジェクトアワード島根県大会:2020年2月

#### (3) コーディネーター支援

a. コーディネーターの職域定義、育成プログラム開発:通年  
- 地域との協働による魅力化ガイド(岩波書店)の発刊

- コーディネーター職域定義設計

- コーディネーター対象研修(島根県)

- 視察(長野県飯田市)・検討合宿

・全国地域教育魅力化フェスタ2019

#### (4) 共学共創ネットワーク

a. 高校魅力化に関するイベント:2019年4月~2020年3月(計2回)

- 地域みらい留学フェスタ

- 地域との協働による全国サミット

## 2. 教育魅力化プログラム研究開発

### (1) 子ども成長 KPI、地域インパクト評価の実装・確立

a. 高校魅力化評価アンケート実施

- b.アンケート結果分析・内容改善・ビジネスモデル検討
- (2)教育魅力化の研究
  - a.ブータン視察・提携先開拓
- 3.運営手法の強化
- (1)ファンドレイズ手法の確立
  - a.勉強会開催:2019年4月～2020年3月

## 2. 事業内容詳細

- 1. 教育魅力化の全国展開
  - (1)地域留学のサポート
    - a.地域みらい留学フェスタの開催:2019年6月(計4回)
      - ・目標:50校、3000名
      - ・時期:6月22日(土)大阪、6月23日(日)福岡、6月29日(土)東京、6月30日(日)名古屋
      - ・対象:開催地付近に住む中学生(主に3年生)の親子2093名、地域みらい留学を推進す  
す26道県55校の高校・地域
      - ・目的:
        - 地域みらい留学という選択肢を当たり前の世の中にする
        - 地域の高校が学校の多様性の向上や高校の存続のために県外生徒募集を実施できる環境をつくる
      - ・内容:
        - 地域みらい留学オリエンテーション
        - 地域の学校説明ブース
        - 「生徒が語る地域みらい留学」「保護者が語る地域みらい留学」セミナー
        - 特別対談「令和時代を生きる君たちへ」スポーツ界・留学界トップと語るこれからの時代の学びと生きる力
      - ・詳細
        - i:地域みらい留学フェスタ詳細内容
          - 地域みらい留学オリエンテーション
 

地域みらい留学フェスタに来場くださる方は、初めて地域みらい留学について聞く方から、既に志望校が決まっている方まで、理解度はさまざま。まずは「地域みらい留学とは？」を知っていただくために、概要・魅力・留学にむけての進め方などを地域みらい留学事務局から説明します。その後は、パンフレットで、気になる高校・キーワードを見つける時間。心の準備ができたなら、いよいよ全国の地域の学校と出逢う時間がはじまります！
          - 地域の学校説明ブース
 

北海道から沖縄まで、全国26道県55校の高校が1校ずつブースでじっくり高校のことを聞くことができるチャンス。豊かな自然を体感してもらうために鮮やかな写真や映像で説明

する学校・生徒のリアルな声を届けるためにテレビ会議で高校につなぐ学校・地域で学ぶ楽しさや成長実感に触れてもらうために高校生が自らプレゼンテーションをする学校など、それぞれ創意工夫しながら「地域みらい留学」を知ってもらう機会になりました。

#### -「生徒が語る地域みらい留学」「保護者が語る地域みらい留学」セミナー

「新しい選択肢ゆえに、経験者になかなか会うことが出来ない」そんな悩みを解決するために都会から様々な地域へ留学した在校生・卒業生・保護者を迎えたトークセッションを実施しました。進学理由、実際の高校生活・寮生活、卒業後の未来の話をそれぞれ語る時間。感じたギャップなども赤裸々に話しつつ「それでも地域みらい留学でよかった」とまっすぐ語る生徒・卒業生・保護者の姿に、聞き入っている参加者の姿が印象的でした。

#### -特別対談「令和時代を生きる君たちへ」スポーツ界・留学界トップと語るこれからの時代の学びと生きる力

若者の留学を応援する国家プロジェクト「トビタテ！留学 JAPAN」船橋力氏と、元リクルートエージェント社長で現 Jリーグチェアマンの村井満氏をお招きし、「業界問わず必要とされる令和時代の学びと生きる力とは？」をテーマに特別対談を開催。自身の失敗体験や家族との向き合い方などプライベートな話も織り交ぜながら進行した対談では、地域みらい留学という選択に閉じずに、これからの時代の親のあり方について考えさせられる時間になりました。

#### ii : 地域みらい留学フェスタに向けた広報活動

##### -中学校へのチラシ配布/配布依頼

まずは中学生に地域みらい留学を広く知っていただくために、東京・神奈川・埼玉・千葉・大阪・兵庫・愛知・福岡・京都・北海道圏内の中学校全校に合計 33 万枚のチラシを送付し、その後、各校への配布依頼のお電話を掛けました。

##### -HP/WEB 広告/SNS の運用

情報検索をして探す方に地域みらい留学の情報が届くように、HP 情報の充実・大手 WEB マーケティング会社オプトと協働した、SNS(Facebook/Twitter/Instagram)、検索エンジン等の広告運用を実施しました。

##### -進学フェア等のイベント出展

直接地域みらい留学を説明・PR する機会として、東京や大阪の進路説明会(ベネッセ進学フェア/埼玉東部進学フェア/神奈川県全公立展等)にてブース出展させていただき、そこで出逢った 132 名の方にフェスタにお越しいただきました。



配布したチラシポスター



WEB 広告



進学説明会への出展

・成果物

地域みらい留学フェスタ 2019 報告資料(参考資料 1)

地域みらい留学フェスタ 2019(先生・地域から見る地域みらい留学)

[https://www.youtube.com/watch?v=j1WR6\\_jg78o](https://www.youtube.com/watch?v=j1WR6_jg78o)

地域みらい留学フェスタ 2019(生徒から見る地域みらい留学)

<https://www.youtube.com/watch?v=9Y5bOGbYJAY&t=10s>

地域みらい留学ポスター(10000 部)



地域みらい留学チラシ(400,000 部)



## (2) 課題解決学習プログラム開発

a. 合宿: 2019年9月

### ① 開催日時・場所

2019年9月14日(土)~16日(月)

島根県立青少年の家(サンレイク) 島根県出雲市小境町1991-2

### ② 参加者数

高校生 56人 大学生 13人 社会人 9人

### ③ 内容

#### ・1日目: プロジェクトの種を見つける

自分の人生を振り返るワークを通して自分の過去から大切にしている価値観やテーマになりそうな種を探す。

#### ・2日目: プロジェクトをつくる

すでにマイプロジェクトを実践した先輩の話聞き、自分のプロジェクトのイメージをふくらませる。その後、1日目で見つけた種をベースに、具体的なプロジェクトに落とし込む。

#### ・3日目: プロジェクトを宣言する

自分が取り組むプロジェクトを発表し、これからどんなアクションを日常生活の中で起こしていくのか考える。また合宿全体のふり返しを実施する。



#### ④本合宿を通じて生まれた高校生のプロジェクト



#### For ALS Patients

島根の人、日本の人、世界の人にALSについて、また難病について知ってもらいたい、当たり前は当たり前では無い事に気づいてほしい、という想いでこのプロジェクトを始めました。  
 (1)Facebookで「ALS患者の人達を笑顔にさせる会」を作成、  
 (2)島根県ALS協会支部長へのインタビュー、(3)島根県難病フォーラムへの参加、(4)雲南ソーシャルチャレンジ大発表会でマイプロの途中経過をプレゼン、などの活動を通してこのプロジェクトを進めています。



#### マイクロプラスチック

地元の浜辺に漂着物などのゴミがあるのを見て、綺麗にしたいと思い、ごみ拾いのボランティアに参加したことがあります。その際に、ジオパークの説明を聞いて、ただ大きいゴミを拾っただけでは、生物がマイクロプラスチックを摂取してしまい、死んでしまうかもしれないリスクには変わりないことを知りました。どうにかして海岸に漂着するマイクロプラスチックを取り除きたいと思い、このプロジェクトを始めました。

b.マイプロジェクトアワード島根県大会(しまね未来共創フェスタ):2020年2月

#### ①開催日時・場所

しまね高校生マイプロジェクトアワード

日時/2020年2月8日(土) 10:00-22:00

場所／くにびきメッセ 国際会議場 島根県松江市学園 1-2-1  
しまね未来共創フェスタ

日時／2020年2月9日(日) 9:00-16:30

場所／くにびきメッセ 国際会議場 島根県松江市学園 1-2-1



## しまね未来共創フェスタ

2/8 (土) 1部 高校生マイプロジェクトアワード  
2/9 (日) 2部 島根の未来を考える共学共創



### ②参加者数

高校生 132人(52プロジェクト) 大学生 30人 社会人 15人 観覧 34人

### ③審査員

- (1) 株式会社益田工房 代表取締役 洪 昌督 様
- (2) 浜田市第一中学校 校長 滝本 浩之 様
- (3) まめ茶の秀翠園 代表 津和野商工会青年部部長 田中 懸志朗 様
- (4) 石見銀山テレビ放送株式会社 取締役 杉谷 孝雄 様
- (5) 一般社団法人平田青年会議所理事長 河原 剛 様
- (6) つちのと舎 代表 三瓶 裕美 様
- (7) 山陰合同銀行 島大前支店 支店長代理 竹本 浩 様
- (8) NPO 法人 てごねっと石見 理事長 藤田 貴子 様
- (9) 雲南市役所 政策企画部 部長 佐藤 満 様
- (10) 知夫村教育委員会 知夫村教育魅力化コーディネーター 宮野 準也 様
- (11) 奥出雲町教育魅力化統括プロデューサー 桑谷 猛 様
- (12) 上山佐地区コミュニティ再生会議 事務局 山佐交流センター 主事 安井 章二 様
- (13) 島根県立大学総合政策学部(浜田キャンパス)准教授 村井 重樹 様
- (14) 島根大学 教育・学生支援機構 大学教育センター 副センター長(教授) 泉 雄二郎 様
- (15) 島根大学 地域未来協創本部 地域人材育成マネジャー 高須 佳奈 様
- (16) 島根県教育庁 教育監 佐藤 睦也 様
- (17) 島根県教育庁 社会教育課 課長 畑山 経弘 様



#### ④しまね未来共創フェスタ ゲスト

##### 【民間】※順不同

株式会社いづも農縁 代表取締役 吉岡 佳紀 様  
特定非営利活動法人おっちラボ 代表理事 小俣 健三郎 様  
株式会社石見銀山生活観光研究所 代表取締役社長 松場 忠 様  
株式会社 COME TREES 代表取締役 二木 春香 様  
有限会社竹葉 代表取締役副社長 小幡 美香 様  
株式会社サンキ 代表取締役社長 森脇 信太郎 様  
株式会社島根日日新聞社 代表取締役社長 菊地 恵介 様  
有限会社玉木製麺 代表取締役社長 玉木 暢 様  
FISM 株式会社 代表取締役 COO 白枝 悠太 様  
モルツウェル株式会社 代表取締役社長 野津 積 様  
カナツ技研工業株式会社 福島 光浩 様

##### 【経済団体・財団】

一般社団法人島根県経営者協会 会長(株式会社山陰合同銀行 取締役会長) 久保田 一郎 様  
松江商工会議所連合会 青年部会長 (有限会社 黒潮社 代表取締役) 菅田 啓司 様  
島根県商工会青年部連合会 会長 (株式会社大社木工 取締役) 尾添 泰宏 様  
島根経済同友会 (株式会社メディアスコープ 代表取締役社長) 中尾 禎仁 様  
島根県中小企業団体女性協議会 副会長(株式会社アート 代表取締役社長) 伊瀬 孝子 様  
島根県中小企業家同友会 代表理事 (モルツウェル株式会社 代表取締役社長) 野津 積 様  
公益財団法人ふるさと島根定住財団 理事長 原 仁史 様

##### 【島根県】

政策企画局長 野津 建二 様  
地域振興部長 種葉 寛佳 様  
商工労働部長 新田 典利 様  
教育長 新田 英夫 様

#### ④目的・当日の内容スケジュール

目的: 意志ある若者に溢れる島根になるために、高校生・大学生・社会人・経営者・行政が、  
立場と世代を超えて、高校時代・卒業後に必要な施策のアイデアを共創する。

2/8(土)

**10:00-10:40 しまね探究フェスタ・しまね未来共創フェスタオープニングセレモニー**

高校生、大学生、学校関係者含めたオープニングセレモニー

**10:50-15:10 〈高校生〉**

しまね探究フェスタ  
高校生MY PROJECT AWARD 予選ブロック



**15:10-17:30 しまね探究フェスタMY PROJECT AWARD 決勝ブロック**

全国高校生マイプロジェクトAWARDに出場する高校生を決めるための代表プレゼンテーション！  
大学生、社会人も高校生のプロジェクトを通して、自分のテーマを考える。

**17:30-18:00 閉会セレモニー**

**18:00-19:00 リフレクション**

本日の活動を振り返り、明日の場に備える。

2/9(日)

**10:00-10:20 未来共創フェスタオープニングセレモニー**

**10:20-11:20 未来共創ワークショップⅠ**

高校生・大学生・社会人・経営者の異世代が、1チーム5-6人程度のグループとなり、  
テーマごとのチームビルディングをおこなう。

**11:20-12:00 しまね未来創造リーダー 経営者プレゼン**

島根の未来をつくる経営者10人のテーマごとのマイストーリープレゼン。

**12:20-12:50 昼休憩**

**12:50-13:35 しまね未来創造リーダー 高校生・大学生・若手社会人プレゼン**

前日のしまねマイプロジェクトアワードで選ばれた高校生に加えて、島根の未来をつくる大学生・社会人の代表者が、島根の問題意識や自身の取り組みを重ねて語る

**13:35-15:00 未来共創ワークショップⅡ 「島根の未来を考える」**

意志ある若者に溢れ、若者が帰ってきたい島根に、帰ってこなくとも関わり続けたい島根になるために、

- ①高校時代の機会(教育)
- ②大学生・社会人世代の新しい関わり(関係人口)
- ③島根の企業との接点づくり(企業の採用・育成)
- ④島根の働き方(働く環境・働き方)

の4つテーマごとに分かれて、  
島根の未来にとって必要なことを世代と立場を超えて、テーマごとに共創する

**15:00-15:30 閉会セレモニー**

創りたい未来を言葉にし、2日間気づき、学びを棚卸して、お互いに共有をする。



### (3)コーディネーター支援

a.コーディネーターの職域定義、育成プログラム開発、研修：通年

-学校と地域をつなぐ人材の在り方研修会・及び育成プログラムの検討

- ・目標 コーディネーターの職域定義、育成プログラム開発
- ・時期 2019年4月～3月
- ・対象 コーディネーター及び、有識者及び文科省担当者
- ・目的 コーディネーターの現状を踏まえて、職域の定義や育成プログラムの検討
- ・内容 4月～6月 要件定義のアドバイザーによる検討・育成プログラムのリサーチ  
6月 「地域協働による高校魅力化ガイド(岩波書店)」の発刊(詳細①)  
5月～2月 「学校と地域をつなぐ人材の在り方研究会」の委託実施(文部科学省)  
(詳細②)  
9月 先進地視察(長野県飯田市)(詳細③)  
11月 県単位のコーディネーター育成プログラムの検討・実施(詳細④)

・詳細①「地域協働による高校魅力化ガイド」岩波書店,2019

A5・並製・カバー・220頁(2000部発行)



#### <目次>

巻頭言 社会に開かれた学校をつくる……………鈴木 寛

#### 第1部 高校魅力化とは

0 なぜ今、地域との協働による魅力ある高校づくりなのか

1. 生徒の未来のために——社会に開かれた教育の実現
2. 地域社会の未来のために——持続可能な地域づくりと人づくり
3. 高校魅力化のポイント

【コラム】存続の危機により見えた高校の価値と可能性(高知県立梶原高校)

#### 1 地域との協働による高校魅力化の基盤

1. 想いを共有する意志ある仲間(チーム)づくり
2. 多様な主体による協働体制(コンソーシアム)づくり

3. 共通の創りたい未来の姿(ビジョン)づくり

4. 計画・実行・評価・改善の仕組み(PDCA サイクル)づくり

#### 第2部 つながる主体

##### 2 地域のキープレイヤー

1. 行政のバックアップが魅力化を加速する
2. 幼保, 小中学校など教育機関との連携で学びをつなぐ
3. 大学や民間事業者, NPO などは専門性が強み
4. まちづくりと人づくりを行う公民館
5. 保護者や地域住民を味方につける
6. 有識者や外部専門家の活用

【コラム】学びの内容をともにつくる(岩手県大槌町)

行政が学校活性化に伴走する(三重県)

地域の多様な主体をつないで, 「教育の島」づくり(広島県大崎上島町)

### 3 学校を地域社会に開く意義……………中村怜詞

1. 地域社会と連携すると, 探究的な学びは広く深くなる
2. 学校と地域が協働して実現する学びのフィールド
3. 生徒が地域課題解決型の学習で得られる3つのもの
4. 学校を地域社会に開くプロセス
5. 教師の役割
6. 教師の資質
7. 教師の主体的, 対話的で深い学び
8. 教師のキャリア
9. 持続可能なチームをつくる

### 4 高校と地域社会をつなぐコーディネーター

1. 専門人材としてのコーディネーター
2. コーディネーターの役割
3. コーディネーターの導入
4. コーディネーター配置の効果と課題

【コラム】学校と地域の協働を引き出す仕掛け人(島根県隠岐島前地域)

他校のコーディネーターとつながり, 県を挙げての施策も提案(島根県奥出雲町)

コーディネーターをチームとして導入(島根県雲南市)

〈社会に開かれた学校をつくるヒント集〉

学校と地域をつなぐパターン・ランゲージ

## 第3部 地域社会に開かれた学び

### 5 社会に開かれた学びをつくるカリキュラムマネジメント……………中村怜詞

1. カリキュラムマネジメントのあり方
2. PBL に取り組む生徒との関わり方
3. 卒業生調査から見る PBL の効果

【コラム】生徒も教師も壁にぶつかっては乗り越えてきた「地域学」(島根県立隠岐島前高校)

6 生徒の主体性が発揮される探究学習をどう実現するか……………今村久美

1. 参画の梯子の段階を上げるプロセス設計
2. 熟議から始まるカリキュラムづくり
3. 学校も生徒も地域との接点, 伴走者の存在が必要

【コラム】高校生の行動をともなう探究を促進する「マイプロジェクト」学校外での活動を支援する社会教育

7 地域をフィールドにした教科の実践

1. 国語: 青年会議所と地域の魅力を発信する CM をつくる(東京都立日野台高校)
2. 数学: 地域データを活用して統計を学ぶ(宮崎県立五ヶ瀬中等教育学校)
3. 理科: 地域の自然環境をテーマに探究(群馬県立尾瀬高校)
4. 英語: 地元観光協会と協働し英語で町ガイド(東京都立多摩高校)
5. 美術: 社会と関わりながら表現する力を育む(兵庫県立西宮今津高校)

8 地域系部活動の取り組み

1. 官民の協力を得て活動する「SBP(ソーシャル・ビジネス・プロジェクト)」(三重県立南伊勢高校南勢校舎)
2. 情報発信を通してシビック・プライドを醸成する「ユネスコ部」(愛媛県立新居浜南高校)
3. 専門学科の学びをベースに地域魅力化に貢献する「商業部」(高知県立須崎高校)
4. 県行政が「地域系部活動」を推進(島根県西部県民センター)

第4部 多様性を生む地域留学

9 「越境」で広がる学びの可能性……………尾田洋平

1. 「越境」で広がる可能性
  2. 「越境」環境をどうつくるか
- 《卒業生から》「島留学」は、地元出身の僕らも変えていく  
じっくり自分に向き合えた3年間。夢ができて、志望する大学へ
- 《保護者から》伴走と支援が決め手  
2年間で身につけたこと
- 《教員から》教師も生徒も活動の幅が広がる

第5部 未来につなぐ評価

10 高校魅力化の評価……………喜多下悠貴

1. 「高校魅力化評価システム」とは
2. 評価の枠組みをつくる
3. 魅力化プロジェクトの横断的な評価の難しさ——「学びの土壌」モデル
4. 評価指標をつくる
5. 評価結果を使う

【コラム】「学習する組織」論における「場の質」、「関係性の質」への着目  
パイロット調査で見えてきた「学びの土壌」の重要性  
魅力化を評価するもう一つのアプローチ——社会経済効果の測定

共学共創のプラットフォーム……………水谷智之

おわりに 未来の学校

---

・詳細②

「高校と地域をつなぐ在り方研究会」(文科省委託事業)

目的 コーディネーター人材の役割定義の策定

時期 2019年5月～3月

内容 概要版を作成し、次年度以降の対話の機会につなげることにした。

成果物 高校と地域をつなぐ人材の在り方研究会

[https://www.mext.go.jp/a\\_menu/shotou/kaikaku/1418217.htm](https://www.mext.go.jp/a_menu/shotou/kaikaku/1418217.htm)

概要版 [https://www.mext.go.jp/content/20200401-mxt\\_koukou02-000004712\\_01.pdf](https://www.mext.go.jp/content/20200401-mxt_koukou02-000004712_01.pdf)

(添付資料 3-1)

・詳細③先進地視察(長野県飯田市)

目的 学校と地域をつなぐ人材に関する検討の為、視察研修の実施

時期 2019年9月6日

対象 学校と地域をつなぐ在り方研究会の委員、文科省等担当者

成果物 コーディネーター事業 視察合宿(添付資料 3-2)

詳細④ 県単位のコーディネーター育成プログラムの検討・実施

目的 県単位でのコーディネーター育成プログラム検討

時期 2019年11月

対象 島根県内コーディネーター、自治体担当者 30名参加

内容 コーディネーター対象とする研修計画

(パターンランゲージを用いたコーディネーターの在り方を考える研修及び交流会  
成果物 コーディネーター研修報告(添付資料 3-3)

-全国地域教育魅力化フェスタの開催

- ・目標 研修参加者 160 名
- ・目的 魅力ある高校教育と地方創生の展開に向けて、島根県内の高校、自治体、コーディネーターの挑戦事例の発表や対話を通じて、共に学び共に創る研修会の開催
- ・時期 2019 年 11 月 2 日-3 日
- ・対象 高校魅力化に取り組む高校関係者/コーディネーター/自治体担当者/教育委員会担当者など

初日 107 人(会場参加者 75、オンライン参加者 32 拠点)

2 日目 169 人(会場参加者 140、オンライン参加者 29 拠点)

※2 日間延べ数 276 人

・詳細

11 月 2 日 13:00～18:00(受付 12:30～)

「全国コーディネーターサミット～地域教育を共に学ぶ、共に創る～」

実践者による意見交換・ワークショップ、ポスターセッション等

※全国の実践者による大交流会

11 月 3 日 9:00～11:30(受付 8:30～)

「全国地域・教育魅力化シンポジウムー地域の挑戦から日本の未来を創ろう！」

有識者を交えた分科会・パネルディスカッション等

9:00～10:00 全体ディスカッション

10:00～10:40 分科会

10:40～11:30 パネルディスカッション及び全体まとめ

・内容

全国の高校魅力化に関わる実践者が関心あるテーマをもとに、各分科会企画した。

(1)カリキュラムマネジメント論ー社会に開かれた学びをつくるー

講師 中村怜詞(島根大学教職大学院 准教授)

社会に開かれた教育課程の実現に向けた、カリキュラム及び主体的・対話的で深い学びをマネジメントするために必要な資質・能力とは？

(2)グローバル人材育成論

講師 豊田庄吾(隠岐國学習センター センター長)



これらの地域の持続可能性と、次世代の担い手の育成との交わりを探究するとともに、両者をつなぐ人材育成や学びの場のデザインとは？

(3)コーディネーター交流カフェ

1～4期島根大学養成講座学習者(岩手県、福島県、東京都、島根県、広島県、熊本県など全国から集結！コーディネーター・教職員・自治体職員など教育魅力化の実践者が大集合！！

【コーディネーター全国 MAP/相談交流ブース/書籍・資料展示 など】

(4)新たな人の流れをつくるー地域みらい留学のみらいー

(一財)地域・教育魅力化プラットフォーム

など

○教育魅力化論

ファシリテーター 岩本 悠

(一財) 地域・教育魅力化プラットフォーム 共同代表

ゲストスピーカー 地方創生、地域教育、人づくりにおける有識者 等

地域・教育魅力化の価値や成果について探究し、組織の枠組みを超えて参加者とともに対話しながら、地域と教育の未来を共に創る。

・成果物:島根大学地域教育魅力化センター作成動画

[https://www.youtube.com/watch?v=BQdHAZzibi4&feature=share&fbclid=IwAR2BS\\_swKCAsyk7guqxLsfjT6t6vNN2N9uo2-Vi\\_TzahKAv3Ujt-wRI4s](https://www.youtube.com/watch?v=BQdHAZzibi4&feature=share&fbclid=IwAR2BS_swKCAsyk7guqxLsfjT6t6vNN2N9uo2-Vi_TzahKAv3Ujt-wRI4s)

教育魅力化の  
最前線に参れ！

ネットでの  
遠隔ライブ  
参加も！

# 全国/地域教育2019 魅力化フェスタ

2019 11.2(土)・3(日)

2日 13:00~17:30(受付12:30~)  
18:00~19:00(大交流会)  
3日 9:00~11:30(受付8:30~)

島根大学 松江キャンパス  
〒690-8504 島根県松江市西川津町1050

島根大学 地域教育魅力化センター  
mf@soc.shimane-u.ac.jp

TEL.0852-32-9775 FAX.0852-32-9776

主催：島根大学 地域教育魅力化センター(大学教育センター内) 共催：(一財)地域・教育魅力化プラットフォーム

## 全国/地域教育魅力化フェスタ 2019

1 カリキュラムマネジメント論  
-社会に開かれた学びをつくる-

2 グローカル人材育成論  
-社会の発展の担い手育成と、社会的役割の果たし方を探る-

3 コーディネーター交流カフェ

4 教育魅力化論  
"地域・教育魅力化の未来を創る"

Etc 若手魅力化実践者&コーディネーター大交流会(会費別)

11.2(土)

Facebookページ  
ホームページ

全国コーディネーターサミット-地域教育を共に学び共に創る-

13:30	開場・受付	開会式	PROGRAM
14:00	【第1セッション】カリキュラムマネジメント論 社会に開かれた学びをつくる	3 コーディネーター論 コーディネーターの在り方探究	
15:00		2 グローカル人材育成論 社会の発展の担い手育成と、社会的役割の果たし方を探る	
16:00	【第2セッション】コーディネーター交流カフェ コーディネーターの在り方探究	4 教育魅力化論 "地域・教育魅力化の未来を創る"	
17:00	【第3セッション】若手魅力化実践者&コーディネーター大交流会(会費別)	分科会及び会場ディスカッション	
17:30			
18:00			
18:30			
19:00			
8:30			
9:00			
9:30			
10:00			
11:00			
11:30			

- (4) 共学共創ネットワーク
- a. 高校魅力化に関するイベント：2019年4月～2020年3月(計2回)
- ・時期：2019年6月29日東京(地域みらい留学フェスタ実施後)、2019年10月23-24日東京(オリンピックセンター)
  - ・対象：高校魅力化や地域みらい留学に取り組む高校の校長先生/進路指導担当教諭/コーディネーター

イネーター/自治体担当者/教育委員会担当者など

6月 390名、10月 22名 291名(内、文科省委託事業イベント 250名)

・目的

-高校魅力化や地域みらい留学の価値を高め、各地域で推進できる場づくりやネットワークの構築

-新たに県外生徒募集を実施する高校に対しての情報共有など

・内容:

(2019年6月)

-地域・自治体のための「県外生徒募集ワークショップ」

地域みらい留学、そして地域みらい留学から始まる学校と地域の魅力化の取り組みに関心がある、高校関係者・都道府県教育委員会・市町村担当者が総勢50名がワークショップに参加しました。「島留学」を推進して道を切り開いてきた島根県立隠岐島前高等学校/隠岐学習センター長の豊田さんから「留学の取組を開始してから今までの葛藤」をお話いただき、自分の地域・学校はなぜ・どこまで覚悟を持って取り組むのか？を問い直す時間になりました。

-第一回地域みらい留学推進協議会「共学共創ワークショップ」

地域みらい留学は、2019年度から「地域みらい留学推進協議会」を設立し、全国の「地域みらい留学をきっかけに高校魅力化を推進していきたい」と考える高校関係者と共に、地域みらい留学の価値を高め、広める動きをしています。2019年度の地域みらい留学フェスタに関わった関係者は高校の校長先生/進路指導担当教諭/コーディネーター/自治体担当者/教育委員会担当者など、総勢390名。東京会場の開催後に、互いに学び合い共に未来をつくることを目的に第一回推進協議会「共学共創ワークショップ」を開催。

5テーマの挑戦事例(※)の分科会、協議会で取り組んでみたいことを考えたあとは、大懇親会。「違う土地で同じ志を持っている人と悩みを語り合うことで、まだまだできることがあると次のテーマが見つかり、自分が出来ないと思いついていたものの枠が外れた。勇気が湧くこのつながりを大事にしたい」と、地域・組織の枠を超えた新たな繋がりが生まれていた様子です。

※2019年度の挑戦事例

地域みらい留学に関わる挑戦事例。今年は、以下の高校/地域に事例発表をしていただきました。

・高知県立嶺北高校「ブランディングとコミュニケーション～会いたい生徒にどうしたら魅力を感じて来てもらえるか～」

・島根県立津和野高校「地域みらい留学が拓く新しい進路実現のあり方～いかに生徒へ寄りそうのか～」

・広島県立大崎海星高校「地域みらい留學生の住環境の受け入れ体制～寮・下宿等のハード・ソフトをどう整えるか～」

・宮崎県立飯野高校「地域を巻き込んだ授業づくり」

・協議会理事会校 校長代表から「魅力化校の校長としての役割・チーム作り」

(2019年6月)

・成果物:

地域みらい留学フェスタ 2019 報告資料(参考資料 1)

-地域との協働による懇親会及び全国サミット (文科省委託事業)

全国の高校と地域との協働による高校改革の推進に向けて、地域みらい留学及び文科省の地域との協働事業モデル校に対象が集まる懇親会を企画し、現場の次へのアクションへのつなげることを目的とする。

①10月23日 懇親会

・18:30～19:00 イン트로・参加者自己紹介

主催挨拶 岩本悠 (一財) 地域・教育魅力化プラットフォーム

関係者挨拶 浦崎太郎氏 (大正大学)

岡崎エミ氏 (東北芸術工科大学コミュニティデザイン学科学科長) 他

・19:00～21:00 懇親会

②10月24日 全国サミット (文科省委託事業)

・成果物

全国サミット報告書 (参考資料 4-1)

## 2.教育魅力化プログラム研究開発

### (1)子ども成長 KPI、地域インパクト評価の実装・確立

#### a.高校魅力化評価アンケート実施

- ・目標:評価システム実施高校 60 校
- ・時期:2019 年 4 月～9 月 各校での調査実施、10 月以降結果返却
- ・対象:島根県内 39 校、熊本県 16 校  
(助成対象外)文部科学省「地域との協働による高等学校教育改革推進事業」(以下、文科省事業) 指定校 51 校、アソシエイト校 36 校
- ・目的:2017 年度、2018 年度において開発、実施してきた「高校魅力化評価システム」について、引き続き実査による検討を行い、他地域に展開可能なツール・知見として整理する。
- ・内容:WEB システムを用いたアンケートを実施し、結果を返却。文科省事業においては、結果を読み取るワークショップを実施。
- ・詳細:高校の生徒、教員、高校教育に関係する地域の大人等に対して、アンケート調査を実施し(基本的に web システムで回答)、結果を「高校魅力化チェックシート」として返却。  
「高校魅力化チェックシート」では、自校と他の回答校の平均との比較、生徒の成長の経年変化(複数年調査を実施した場合)、学習環境に関する生徒の評価と大人の評価の比較等により、各高校の PDCA サイクルを支援することを意図している。ワークショップでは、自校の結果から、必要な打ち手を検討した。
- ・成果物:令和元年度 地域・教育魅力化の評価システム 構築支援等業務 報告書  
令和元年度 地域・教育魅力化の評価システム 構築支援等業務 報告書概要版

#### b.アンケート結果分析・内容改善・ビジネスモデル検討

- ・目標:評価システム実施高校 60 校
- ・時期:2019 年 11 月～2020 年 3 月
- ・対象:島根県内 39 校他
- ・目的:地域・教育魅力化の一層の推進に当たり活用可能なエビデンスを収集する。
- ・内容:①隠岐島前高校をケースとした社会経済インパクト評価、島根中央高校をケースとした社会経済インパクト評価(簡易版)、地域から高校がなくなることによるインパクトの試算を行い、「高校魅力化評価システム」の開発の内容と合わせて結果を公表。  
②「高校魅力化評価システム」のための WEB システム開発。島根県結果をもとにした分析の実施。

・詳細:①地域・教育魅力化の先進地域である島根県隠岐島前地域、およびそこに立地する島根県立隠岐島前高校を対象として、高校魅力化の社会的、経済的なインパクトの推計を行った。具体的には、「合成コントロール法」を用いて、「魅力化に取り組まなかった島前地域」という反実仮想に基づく対照群を作成し、それと実態との比較に基づき、魅力化の社会・経済的インパクトを算出した。

また、島根県川本町及びそこに立地する県立島根中央高校を対象として、他地域でも比較的容易に計測可能な簡易版モデルを用いた、高校魅力化の社会的、経済的なインパクトの推計を行った。

さらに、上記2つの分析が「高校があることの(正の)効果」であるのに対し、逆に「高校が地域にない/地域からなくなることの(負の)効果」について明らかにするために、全国の地域を対象として、高校の有無が地域の人口に与える影響に係る分析を試みた。

調査結果は、2019年11月22日に当社「政策研究レポート」として公開した。またそれに合わせてプレスリリース、記者向けのレクを行った。

②「高校魅力化評価システム」のためのWEBシステム(アンケート回答用)を開発し、回答集計コストを削減した。ビジネスモデルについては、島根県等で結果活用の研修開催も含めて有料での導入実績をつくと共に、文科省事業のように事業単位での導入に向けて調整を進めた。

- ・成果物:令和元年度 地域・教育魅力化の評価システム 構築支援等業務 報告書  
令和元年度 地域・教育魅力化の評価システム 構築支援等業務 報告書概要版  
調査結果の公表にかかるプレスリリース

## (2)教育魅力化の研究

### a.ブータン視察・提携先開拓

#### ・時期と内容

2019年7~8月(一部のみ助成対象)

-ブータンへの専門家派遣及び日本の生徒との協働による地域課題解決型学習の開始  
→7/27-30にチュカ県にて合宿型PBLプログラムを実施。PBLの成果物として作成した動画を現地旅行社のホームページに掲載。

本合宿型PBLにはNHK松江放送局が帯同し、「ラウンドちゅうごく」で特集を放送された。PBLプログラムを紹介する動画を地域・教育魅力化プラットフォームホームページに、掲載。

継続して行うことを協議し来年度も開催予定。

2019年10~2月(一部のみ助成対象)

-JICA草の根技術協力事業にかかる、ブータン国との合意文書締結

→合意文書締結に向けて、JICA中国と内容について協議。

ブータンからの研修員受け入れと合わせて、11/19・20に締結に向けた協議を実施。

2/16-21に現地を訪問し、最終調整。

-ブータンからの研修員(行政職員、教員、地域コーディネーター等)の受入(20名程度)  
→11/19・20に海士町で実施し、隠岐島前高校等の授業や部活動におけるPBLを見学

・目的:

課題先進地である離島・海士町ではじまり、現在は島根県をはじめ全国に広がっている「学校を核とした地域創生(学校魅力化プロジェクト)」を、ブータンで展開する。学校と地域の協働による「地域の次代を担う人づくり」を地域課題解決型学習や地域系部活動、21世紀型寺子屋等の展開を通して推進する。同時に都市部から地方への新たな人の流れを創出することを目指し、持続可能な地域づくりにも寄与する。

・成果:

- PBLプログラムを生徒対象に実施した Chuka Central School:生徒11名/Gedu Higher Secondary School:生徒4名 Motithang Higher Secondary School:生徒4名
- 地域課題発見解決型学習や学校と地域の協働に関する書籍を発刊した
- 教員向けのPBLプログラムを実施した Chuka Central School:教員3名/Gedu Higher Secondary School:教員1名 Motithang Higher Secondary School:教員1名/Chuka 教育官1名
- PBLプログラムを紹介する動画(英語)を制作した  
[https://www.youtube.com/watch?v=A\\_87\\_5arfGI&feature=youtu.be](https://www.youtube.com/watch?v=A_87_5arfGI&feature=youtu.be)
- JICA 草の根技術協力事業において、合宿型PBLを発展させ、中長期のPBLプログラム“PBL for GNH“を開発していく方向で基本合意を得た

### 3.運営手法の強化

#### (1)ファンドレイズ手法の確立

・時期:2019年6月～2020年3月

・対象:世の中一般の方々

・目的:

日本の地域を舞台に、子どもの成長と地域のみらいづくりを同時に実現していくモデルを全国に広げるべく立ち上げた『地域みらい留学』のビジョン実現に向けて、全世界から寄付会員を募集し、財務・組織基盤強化を目指す。

・内容:

ファンドレイジング戦略立案

マンスリー会員(1ヶ月1,000円から)『地域みらい留学応援10,000人応援委員会』の募集  
大口寄付会員(1口500,000円から)『地域みらい留学ビジョンパートナー』の募集  
個人随時寄付募集

・詳細:

a.ファンドレイジング戦略立案

自団体における潜在力分析、マーケットの把握によりボトルネックとポジショニングを明確化し、ファンドレイジング戦略を立て、特に継続的な支援者を獲得するために、個人の毎月定額の寄付であるマンスリー会員と、大口寄付を募る戦略とした。

—団体のSWOT分析

—団体における潜在力の棚卸

—ステークホルダーピラミッド

—ボトルネック分析

—ペルソナ設定

下記、年間を通じた活動で、マンスリー会員274名、随時寄付23名、大口寄付会員5名加入  
-2019年6月29日イベント開催『地域みらい留学10,000人応援委員会設立会』@東京(地



## 域み

らい留学フェスタと同会場にて) 51 名参加

-2019年7月15日~8月31日『地域みらい留学 10,000人応援委員会設立キャンペーン』

## 実施

-2019年8月31日イベント開催『教育から日本の未来を変える! ? Mirai Night #01』@東京

45名参加

-2019年9月27日イベント開催『教育から日本の未来を変える! ? Mirai Night #02』保護者が

本音で語る地域で学ぶ可能性@東京 80名参加

-2019年10月24日イベント開催『教育から日本の未来を変える! ? Mirai Night #03』地域教育

育のトップランナー先生が本音で語る@東京 90名参加

-2019年11月30日イベント開催『教育から日本の未来を変える! ?』日本財団ソーシャルイノ

ベーションフォーラム内@東京(東京国際フォーラム) 250名参加

-2019年12月23日イベント開催『私たちが選んだ地域×教育という生き方/Mirai Night 05』@

島根 30名参加



## ・成果物:

マンスリー会員募集パンフレット



マンスリー会員募集リーフレット



マンスリー会員お礼キット



マンスリー会員募集特設サイト: <https://supporter.c-platform.or.jp/>

イベントレポート: <https://note.com/cmirai/n/n7e693b315daa>